

(六月八日) つづき

夜、乃木坂のギャラリー間、難波和彦「箱の構築」展オープニングへ。松村秀一、中谷礼仁等と会う。久し振りに高橋晶子さんとも会えて良かった。パーテイくらい苦手なものは無いので、できるだけ出ないようにしているのだが、難波さんのは出る。

六月九日 土曜日

朝、2階のガラン洞空間に上ったら、円形収納ユニットの原寸図がセットされていた。チョツと大き過ぎるなコレワ。思い切つて半径三〇〇MMくらいカットした方が良く、原寸を作らせて良かった。まだ私のスケール把握能力も大したもんじゃないね。

九時からミーティングを始める。

午後は三年製図の講習会。年々、学生の設計能力が落ちてきているのを痛感するが、要するに突出した人材を発見できるか、できぬかが教師の役割なのだから、更に言つてしまえば建築家の役割だ。波風も立たぬ人材の群ではどうにもならぬ。又、低い水準の学生に合わせて幼稚園みたいな事を批評しても仕方ない。駄目なモノは駄目なのだ。駄馬を走らせても見苦しい。口バをサラブレッドに改良するのは不可能である。大学院大部屋構想を実現するためには、先ず石山研内に複合領域コースを作ることではないか。その為には次に、研究室横断の院生を作る必要がある。

六月十日 日曜日

朝八時発、富士嶺、上九一色村聖徳寺へ。土地の再確認。午後は住職を交えて様々な相談。太陽、風エネルギーによる〇工ナジー・プロジェクト。雨水蒸留、浄化方式の実践にテーマを絞り込んだ方が良くも知れない。宗教的空間に焦点を合わせるのは避けなければならない。

六月十一日

今日は終日、世田谷村で打合わせ。

夕方、中川武教授と建築学科将来構想に関して打合わせ。学科内複合領域コースの実現の可能性について話し合う予定。

世田谷村二Fのクローセットユニットの直径、今度のモデルでは小さ過ぎるような気がする。

屋上に本格的に土が上がり始めたが、吸水の問題、排水の問題をキチンと解決しなくてはいけない。野菜畑はカラス対策も必要だ。

三Fのプラムの樹の下にトマトの苗が育ち始めているが、何故こんなところに、いきなりトマトが芽を出すのか不思議だ。今年も、グレイプフルーツの樹にアゲ羽蝶が卵を生みつけ始めた。